

水稲の「密苗」移植栽培技術

10アールあたりに使用する苗箱数を5～6箱と大幅に少なくし、水稲作の育苗コスト・移植作業労力を削減

研究開発の背景

- ・水稲生産の各工程において、コスト削減技術が求められている。
- ・播種・育苗・本田整地・移植の春作業期は最も過密繁忙で労働ピーク。規模拡大の制限要因になっている。
- ・水稲育苗箱の運搬は重労働。

研究成果の内容

育苗箱当たり 乾粃250g～300gの播種
15～20日の育苗期間
葉齢2.0～2.3、苗丈10～12cmの苗
1株当たり3～4本を正確に掻き取り・植付け
種子予措、育苗管理、移植後の管理は同じ

- ➡ 慣行の2～3倍
- ➡ 慣行よりも短期間
- ➡ 慣行より若苗
- ➡ 慣行と作業は同じ
- ➡ 特殊な技術は不要

慣行乾粃100g



密苗乾粃300g



300g播きの密苗を、8条植え田植機に16箱積載で、30a圃場を苗補給なしで移植作業が可能

- 10アールの使用苗箱数が5～6箱に！
- 収量と品質は慣行と差がない。

導入メリット

苗箱数が減る！育苗資材費が減る！
運搬・苗継ぎ時間が減る！

育苗箱数

4,500箱→1,500箱

ビニールハウス

9棟→3棟

播種及び苗運搬時間

195時間→65時間

育苗資材費

(育苗箱、培土、種子粃等)

145万円→67万円

水稲30ha経営で、播種量を現行100g/箱、密苗300g/箱とした場合の試算

1/3

1/3

1/2

期待される効果

・水稲作における育苗資材費、育苗管理・移植作業の労力の削減による低コスト・省力化。

導入をオススメする対象
全国の水稲作経営体

開発機関：石川県農林総合研究センター、(株)ぶった農産、(農)アグリスターオナガ、ヤンマー(株)
【予算区分：県単独予算、攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業】

問い合わせ先：石川県農林総合研究センター農業試験場 TEL 076-257-6911